

事業名 木育プログラム「森の恵みの子育ち・子育て！」



1 実施団体

特定非営利活動法人青梅こども未来

2 担当課

農林課・子ども家庭支援課

3 実施時期

4 参加者

5 実施場所

タイトル	開催日時	場所	参加者数
世界に一つ！ 森のかけらの 【お守り】作り	2015年 8月23日（日） 13:30～15:30	永山ふれあいセンター 研修室・創作室	子ども 15名 大人 9名 計 24名
森の恵みで 積み木を作ろう！	2015年 12月5日（土） 13:30～15:30	新町市民センター 第1・2会議室	子ども 11名 大人 20名 計 31名
第1回 ・木育寺子屋 ・赤ちゃん 木育おもちゃ広場	2015年 9月3日（木） 10:30～12:30	子育て支援センター	子ども 30名 大人 29名 計 59名

第2回 ・木育寺子屋 ・赤ちゃん 木育おもちゃ広場	第2回 2015年 11月5日(木) 10:30~12:30	子育て支援センター	子ども 30名 大人 26名 計 56名
第3回 ・木育寺子屋 ・赤ちゃん 木育おもちゃ広場	第3回 2016年 1月21日(木) 10:30~12:30	東青梅市民センター 和室	子ども 16名 大人 14名 計 30名
上記合計			子ども 102名 大人 98名 総計 200名

6 事業の目的

デジタル機器が生活の必需品となった現代社会におけるコミュニケーション不足が懸念される中、円滑な人間関係の構築が困難になる等、子どもの健全な成長が脅かされる危険性が出てきている。このような社会状況の中で大切にしたいのが《自然と人ともに触れる環境づくり》である。

青梅市は市の面積の60%が森林で自然に恵まれた立地にあることから、身近にある木とふれあい・木とに学び・木と生きる《木育》プログラムを通して、豊かな自然によって育まれる命の素晴らしさを知り、木の温もりや愛おしさを感じながら、子ども達の五感を多様に育むことを目的とする。

7 役割分担

・団体の役割

担当人員（講師・スタッフ）の確保 広報活動 材料の準備
会場準備 等

・担当課の役割

会場予約 広報おうめへの告知・募集記事掲載 募集受付
関係事業者への取次ぎ

開催時（初回）、参加者への挨拶（協働開催の主旨等の説明） 等

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

日本や青梅の森林環境について学習し意識を持つ事で、自然環境への関心を高める事に繋がった。身近な自然（青梅の森）に興味を持ち、暮らしの中で《木とのつながりを感じる力》を育むことができた。

実際に木に触れて作品を作ったり木のおもちゃで遊ぶ事により、モノを大切に作る心を育みながら、木の持つ心地よさを五感で感じ木の魅力を再確認する事が出来た。

また、木のおもちゃ一つでいくつもの遊び方があることを知る事で、子どもと一緒に遊んでみようと言う親の気持ちを育て、子育てが楽しくなるという効果があった。

9 目標達成

事業の目標：

木にふれあい、自然と向かい合うことで、生きる力を育む

目標の達成具合

- * 「木で作ること」を通して木で作った物に愛着を持ち大切に作る心を育めた。
- * 指を使い、音を聴き、匂いを嗅ぎ、五感を総動員して木に向かい表現することを通して創造力を育むことができた。
- * 一つのモノづくりにじっくり取り組むことで、根気が育ち達成感を得ることが出来た。それは自信へと繋がり新たな課題に挑戦する力となった。

10 事業の実施内容

- ① 「世界に一つ！森のかけらの【お守り】作り」
- ② 「森の恵みで積み木を作ろう！」
- ③ 「木育寺子屋・赤ちゃんの木育おもちゃ広場」

* 詳細については別紙「実施報告書」参照

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課 (農林課)	担当課 (子ども家庭 支援課)
(1) 事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	3	3
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	3	3
(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3	3
(4) 協働相手は適切だった	4	3	4
(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3	4
(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3	4
(7) 事業実施は円滑になされた	4	3	4
(8) 設定した目標が達成された	4	3	4
(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3	4
(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3	2

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

* 広報活動について、市報に掲載する際「市民提案協働事業（農林課・子ども家庭支援課との共同開催）」であることの明記及び詳細内容（写真・イラスト含む）を事業ごとに随時記載して頂きたかった。

* 広報の手段として、市報やチラシ掲示の他にメール配信等検討の余地があったように思う。

* 当日の参加者名簿は、開始30分前までに整える必要があると思う。
行政との速やかな業務連携に課題が残った。

13 その他

本事業開催にあたり、協働開催の農林課林務係、子ども家庭支援課、市民活動推進課に大変お世話になりました。ありがとうございました。